



令和6年度
育成者研修会



宮崎市教育委員会
宮崎市子ども会育成連絡協議会

略語解説

①市子連（シコレン）

宮崎市子ども会育成連絡協議会の略称で、市町村毎に組織があります。地域によっては、育成連（イクセイレン）、育成協（イクセイキョウ）等の略称もあります。

②県子連（ケンコレン）

市子連の上部組織で、各都道府県の子ども会育成連絡協議会の略称です。全国子ども会は、全子連（ゼンコレン）と略しています。

③校区子連・校区子連協（コウクコレン・コウクコレンキョウ）

宮崎市内の小学校を単位として、各地区の子ども会（単位子ども会）をまとめている組織の略称です。

④育成者（イクセイシャ）

子ども会活動に関わる大人全般を示す言葉で、子ども会の保護者のほか、地域に住むすべての大人を含んでいます。

⑤ジュニア・リーダー（ＪＬ）

宮崎市子連では、「中高生リーダー養成講座」を受講している中学生・高校生をジュニア・リーダーと呼んでいます。ジュニア・リーダーの役割は、後頁で説明しています。

宮崎のジュニア・リーダーは、「おひさま」というクラブを結成しており、講座で学んだレクリエーション、創作活動、会の運営方法などを子ども達に指導し、単位子ども会活動の運営・補助を行っています。

【宮崎市子連事務局の連絡先】

〒880-0001

宮崎市橘通西1丁目1番2号（市民プラザ3F）

宮崎市子ども会育成連絡協議会事務局

TEL・FAX：32-5122

Mail：m-koren@miyazaki-catv.ne.jp

窓口業務：平日火～金 9時30分～16時



宮崎市子連公式 LINE



宮崎市子連ホームページ

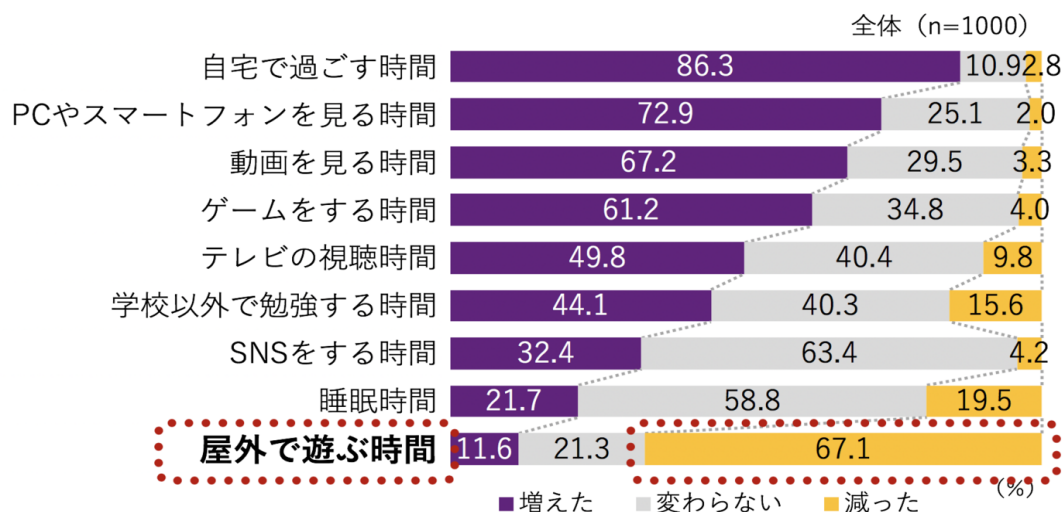


市子連事務局メール

Ⅰ 子どもの生活環境の変化とあそびの変遷

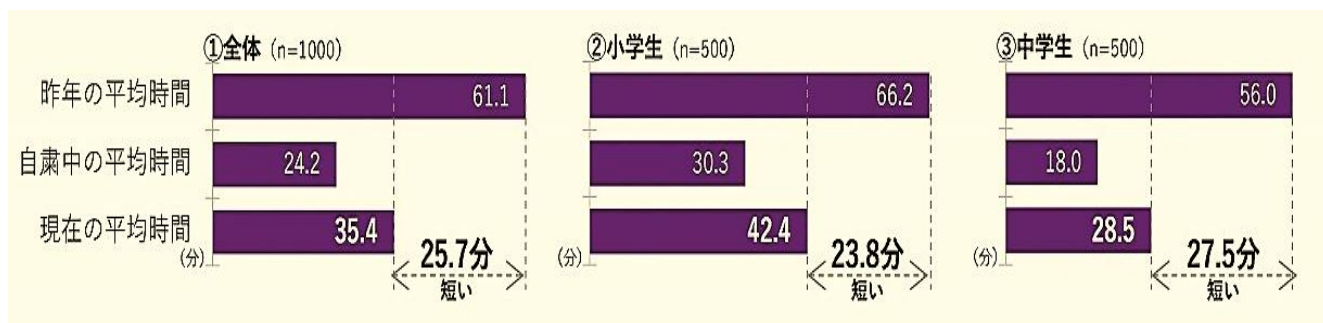
令和2年以降、新型コロナウイルス感染症の大流行により、三密（密集・密接・密閉）回避の対策が行われ、人との接触（交流）が制限される中、子どもの放課後の過ごし方が大きく変化しました。

「自宅で過ごす時間」「PCやスマートフォンを見る時間」「動画を見る時間」などが増えている一方で、「屋外で遊ぶ時間」が減少し、この傾向は現在も続いています。



小中学生の子どもを持つ全国の20代～50代の男女1,000人（父親・母親各500人ずつ）を対象に調査
近視予防フォーラム事務局調査（R2）

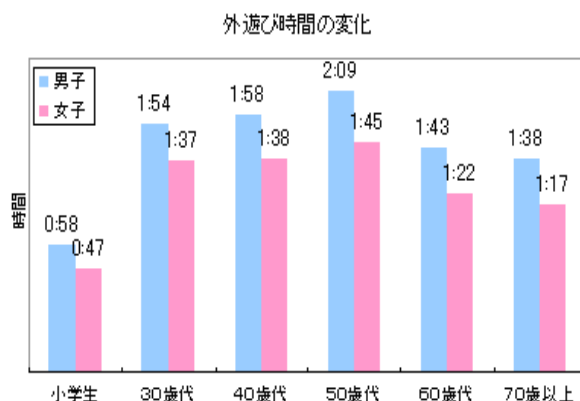
◇コロナ禍以前と以降の外遊び時間の変化



近視予防フォーラム事務局調査（R2）

◇外遊び時間の変化（世代別）

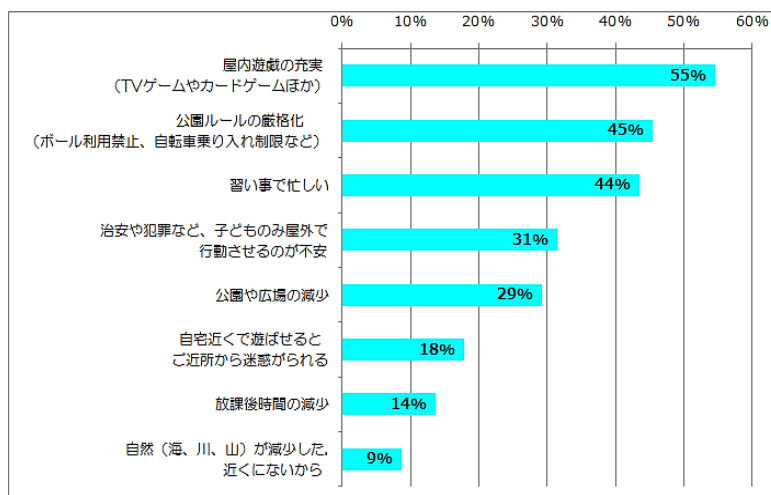
外遊び時間の変化は、世代別でも大きく変化しており、保護者世代と比較すると外遊びの時間が半減しています。



◇外遊びが減少した理由（保護者が回答）

外遊びが減少している理由として、「屋内あそびの充実」が一番の理由としてあがっていますが、その他に「公園ルールの厳格化」「治安や犯罪などの不安」「公園・広場の減少」など、遊びたくても遊ぶ場所がない（少ない）ことも一因としてありそうです。

習い事については、学年があがるほど習い事の個数が増えていく傾向にあり、「忙しい」と感じる小学生が約半数いるという調査結果もあります。



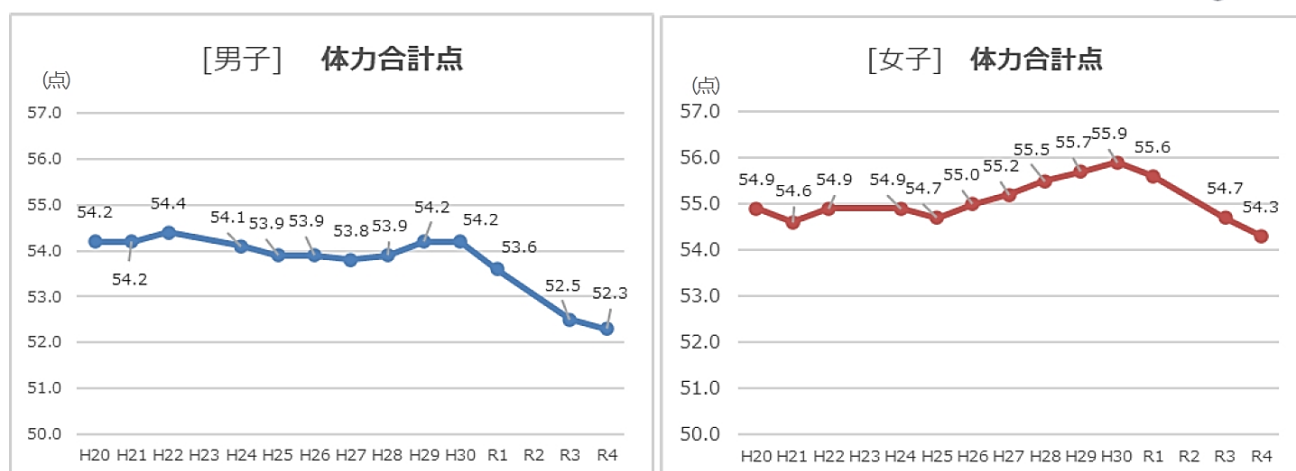
◇コロナ以降、子ども達の体力は低下している

スポーツ庁が行っている全国体力・運動能力、運動習慣等調査によると、体力テストの合計点が令和元年から連続して低下しており、主な要因として次の4つをあげている。

- ① 1週間の総運動時間がコロナ以前の水準に至っていない
- ② 肥満である児童生徒の増加
- ③ 朝食欠食、睡眠不足、スクリーンタイムの増加などの生活習慣の変化
- ④ マスク着用中の激しい運動の自粛



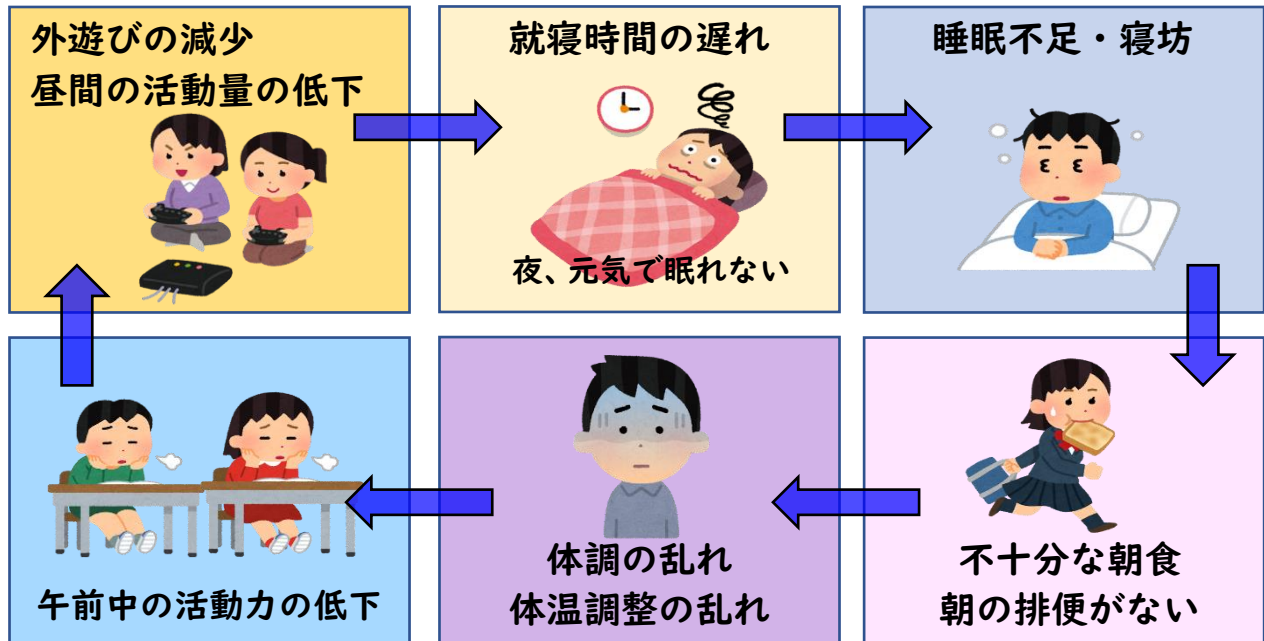
（小学校）



令和4年度 全国体力・運動能力・運動習慣等調査報告（スポーツ庁）

◇生活リズムの悪循環で子どもの成長に与える悪影響

- ①体調不良（原因不明の頭痛や発熱、体温の乱れ）
- ②ストレス、イライラ（暴力的な言動）
- ③集中力・思考力の低下、やる気がでない等
- ④成長ホルモンの分泌異常、子どもの肥満（生活習慣病）

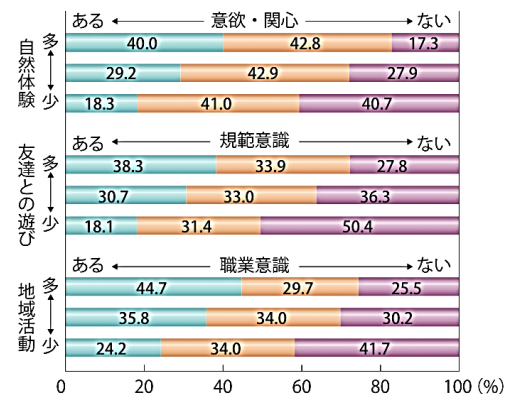


生活リズムの基本：早寝・早起き・朝ご飯

◇子どもは外遊びで多くのことを学び、成長しています。

- ① 基礎体力が養われる
（体を動かすことで脳や体を発達させる）
- ② 積極性が育つ
（自発性、創造性、柔軟性がアップ）
- ③ コミュニケーション能力アップ
（子ども社会の中でルールを学ぶ）
- ④ 健康維持に効果的
（活動量の増加で良好な睡眠を取ることができる）
- ⑤ 失敗経験から学べる
（危機回避能力もアップ）
- ⑥ 学習能力向上の可能性
（自然や動物の触れあいで脳に多くの刺激）

子どもの頃の体験と大人になってからの意欲・関心等との関係



（出典）独立行政法人国立青少年教育振興機構（2011）「子どもの体験活動の実態に関する調査研究（平成22年度調査）」

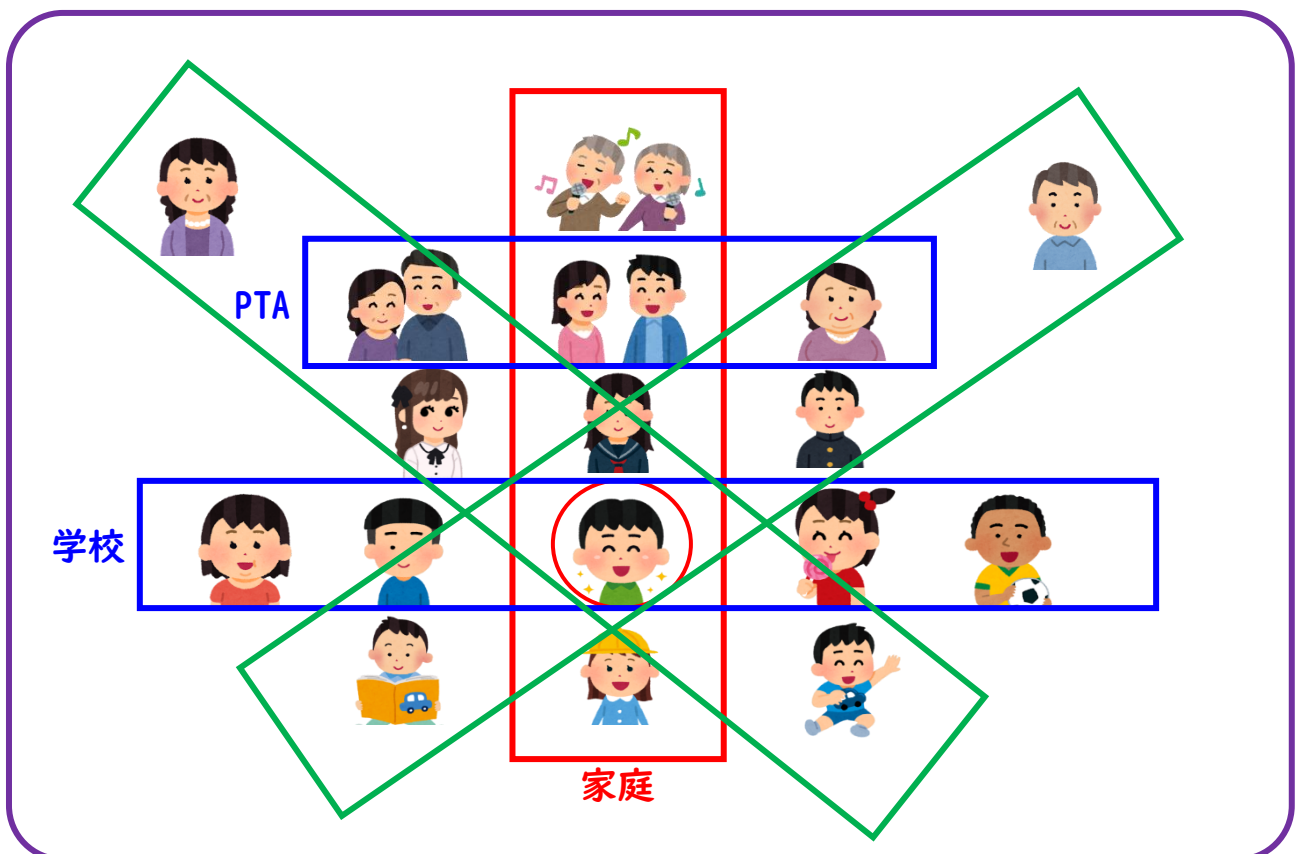
2 子ども会の必要性と役割

◎子ども会の定義

子ども会は、地域を基盤とし、異年齢集団による様々な体験活動や交流等を通して心身をきたえ、社会生活を営むための基本的な技術や態度を身につけることを目的に、地域社会の大人（育成者）の協力によって組織された少年団体です。

『あそび』を通じて形成される子ども社会が「子ども会」の原点

◎地域の子どもは地域で育てる



地域(自治会)

- ★家庭は縦のつながり
- ★学校は横のつながり
- ★子ども会は、斜めのつながり

「子ども会活動」は、人とのつながりを広げてくれる。

◎子ども会の必要性

子ども会が必要とされる理由としては、同じ地域に住む子どもたちが仲良くするか、非行を防ぐとか、夏休みなどの学校生活から開放された時の安全対策のためなどいろいろあります。また、子ども会の必要性が叫ばれる背景として次のようなことが考えられます。

① 集団遊び（外遊び）の減少

- ・ 少子化に伴って、子ども同士の切磋琢磨の機会が少なくなった。
- ・ 近隣の子どもたちが、仲間集団を作って遊ぶ機会が少なくなった。
- ・ 生活習慣の多様化（スポーツ少年団、クラブ活動、習い事・塾通い）

② 家での個人遊びが増加

- ・ 遊びが商品化され、子どもたちが家の中に閉じこもり、個人的な遊びに流されている。

③ 核家族化に伴って、家庭の教育機能の低下が指摘されている。

- ・ 日常のふれあいや地域活動をとおしてなされてきた地域の教育力や連帯意識が低下している。

④ 自発的な生活体験不足

- ・ 直接体験が減り。間接体験が増えている。
- ・ 親の過保護・過干渉で自発的に活動する生活体験の幅が狭められている。

◎子ども会の目的

子ども会活動は、学校における同学年同士の活動ではなく、異年齢の子どもが一緒に遊び、家庭や学校では経験しないいろいろなことを体験します。高学年の子どもは、小さい子どもやハンディキャップをもった子どもと一緒に遊べるよう工夫し、みんなと楽しく活動するためには自己の欲求をおさえ、協調することの大切さを学びます。

また、活動の中で自分の役割を知り、自分が何をなすべきかを理解し、責任を果たそうと努力します。

このように子どもたちは子ども会活動を通して、生きる力をはぐくみ、連帯性・協調性・責任感などを身につけ、人間関係を学びます。

- ① 健康の増進と体力の向上を図り、たくましい精神を養う。
- ② 自他を理解し、友情を深め、協調性や連帯意識を高める。
- ③ 集団の一員としての役割を自覚し、責任感を養う。
- ④ いろいろな活動体験によって創造力を伸ばす。
- ⑤ 団体の規律や秩序を守り、道徳を重んずる態度を育てる。
- ⑥ 郷土を愛する心や、奉仕する精神を育てる。

◎子ども会の活動の種類

子ども会として考えられる活動は、その活動の性格によっていろいろな分類の仕方が考えられますが、その活動は大きく分けると三つあります。

- 1 社会的なもの・・・ 集団や社会に目を開くのに役立つ活動
- 2 文化的なもの・・・ ゆたかな心を育てるのに役立つ活動
- 3 身体的なもの・・・ たくましい身体をつくるのに役立つ活動

社会的なもの	集 団 活 動	新年度総会、月例会、班長会
	社 会 活 動	七夕会、夏祭り、敬老の日、クリスマス会、もちつき大会
	奉 仕 活 動	清掃活動、美化運動、施設訪問
	安 全 教 育 活 動	自転車教室、体力測定、救急法、危険予知トレーニング(KYT) 安全ポスターづくり、危険地域の点検見学
文化的なもの	文化・芸能活動	郷土芸能の伝承活動、ふるさと再発見、カルタ会 人形劇、音楽会、昔の遊びを調べる活動
	創作・生産活動	スケッチ大会、工作(こいのぼり、たこ、竹馬、しめ縄) 創作みこし、作品展、資源回収、花壇づくり
	学 習 活 動	リーダー研修会、星座観察、他の子ども会との交流会
身体的なもの	ス ポ ー ツ 活 動	球技の練習及び大会、ラジオ体操、駅伝大会
	野 外 活 動	ウォークラリー、サイクリング、オリエンテーリング ハイキング、キャンプ、歩こう会、ピクニック
	レクリエーション活動	ゲーム、ダンス、ソング
その他	広 報 活 動	かべ新聞づくりと発表会、新聞づくり、年間の歩み記録 地域マップづくり



◎プログラムの立て方

子ども会活動がよりよいものになるかどうかは、活動プログラムによって決まります。プログラムには「年間プログラム」「月間プログラム」「行事活動プログラム」の三つがあります。どのプログラムを作成する場合でも、次のことに気をつけることが大切です。

- ① 子どもたちの願い（希望や意見）を大切にする。
- ② 目的をはっきりさせる。
- ③ だれでも気軽に参加できる。
- ④ 地域社会との結びつきを考える。
- ⑤ 予算の配分を考える。
- ⑥ 魅力ある行事名を工夫する。
- ⑦ プログラムに変化をもたせる。
- ⑧ 片寄りのない活動内容にする。
- ⑨ 内容の選択や配列に配慮する。
- ⑩ 時期、日時、場所に配慮する。



◎プログラムの進め方

プログラムにしたがって活動するわけですが、その活動が楽しいものであれば次の活動へ大きく弾みがつきます。その逆の場合は活動への意欲が低下し、次の行事への参加が少なくなります。

したがって、プログラムをどのように進めるかは非常に大切になります。プログラムを進める上で大切なことは、その結果だけではなく、そこにいきつくまでの計画や準備にあります。会員一人ひとりがどのようにかわり、どのように責任を分担し、それをやりとげたかということが重要です。

◎プログラムを進める場合、次のようなことに気をつけることが大切です。

- ① 会場を事前に点検しておく。
- ② 道具や教材を事前に用意しておく。
- ③ 指導者と十分打ち合わせておく。
- ④ 役割（係）を決めておく。
- ⑤ 行事内容を会員に知らせておく。
- ⑥ 時間をきちんと守る。
- ⑦ 落後者がでないように配慮する。
- ⑧ 結果より過程を大切にする。
- ⑨ 失敗は叱らず、けなさず、励ます。
- ⑩ 後始末をしっかりさせ、反省する。



3 育成会の必要性と役割

◎育成会の必要性

子ども会は、子どもたちの手で自主的に活動することを理想としていますが、子どもたちで運営していくには、負担も大きいものがあります。

そこで、子どもたちの活動が活発に行われ、子ども会の目的が十分に達成されるよう側面から援助をしてくれる大人が必要になります。子ども会に理解をもち、子どもの健やかな成長発達を願い、子ども会に精神的、物質的に手を差しのべる大人の組織が育成会です。

◎育成会の役割

育成会の役割は、あくまでも子どもの育成にあるわけですから、直接的な指導にはあたりません。指導者が活動しやすいように条件を整備してやることが重要な役割となります。具体的には次のような役割が考えられます。

- ① 活動の場を確保し、整備する。
- ② 活動に必要な遊具や道具を整える。
- ③ 活動に必要な資金を確保する。
- ④ 指導者の発掘、養成、定着を図る。
- ⑤ 子ども会加入時の保護者への説明（広報活動）を行う。
 - ・子ども会の必要性や安全共済会への加入を促進する。
- ⑥ 学校や関係機関との連絡調整を図る。
- ⑦ 安全対策に努める。
 - ・子ども達の健康状態やアレルギー等も確認する。
- ⑧ 育成会員の協力が得られるようにする。
- ⑨ 育成会員の研修に努める。
- ⑩ 地域社会の環境をよくするように努める。



◎育成活動のメリット

育成会の活動が活発に行われることは、子ども会活動が活発になるとともに、育成者や地域にとって次のような意義があります。

- ① よその子を見ることによって、自分の子どもをより深く見つめることができる。
- ② 親同士の連帯感が生まれ、近隣の大人が仲良くなり、住みよい社会になります。
- ③ 子どもの世話をすることによって気分が若返り、健康になります。
- ④ 自分の子どものかくれた長所や短所に気づき、子育てに役立ちます。
- ⑤ 自分の能力を子ども会に生かすことにより、生きがい感を得ることができます。
- ⑥ 多くの人を知ることができ、毎日の生活が楽しく豊かになります。

4 指導者の役割と指導のポイント

◎指導者の役割

子ども会の指導者は、学校でいえばクラスの先生、野球でいえば監督やコーチのような立場にある人です。一人ひとりの子どもに目を注ぎながら、子ども会をよりよい方向に導いてくれる人です。子ども会における指導者の種類と役割は次のようになります。

<子ども会指導者>

外部指導者

成人指導者・・・総括的指導者、集団的指導者、特別指導者

年少指導者・・・シニア・リーダー（主に18～24歳）

ジュニア・リーダー（主に中高生）

内部指導者・・・イン・リーダー(子ども会のリーダー：主に小学5・6年生)

◎子ども会指導のポイント

子ども会を指導する際は、手で砂を握ったときの気持ちで子どもに接することです。それは、手のひらの中にある砂を力いっぱい握るとどうしても指の間から砂がこぼれます。むしろ手を軽く握るほうが多くの砂を手のひらの中に残すことができます。これと同じように、何かを教えてやろう、引っ張っていこうとはりきりすぎると、手のひらの砂のように子どもが遠ざかってしまいます。力まないで、子どもたちから目を離さずそしてあまり手を出さないようにすることが大切です。

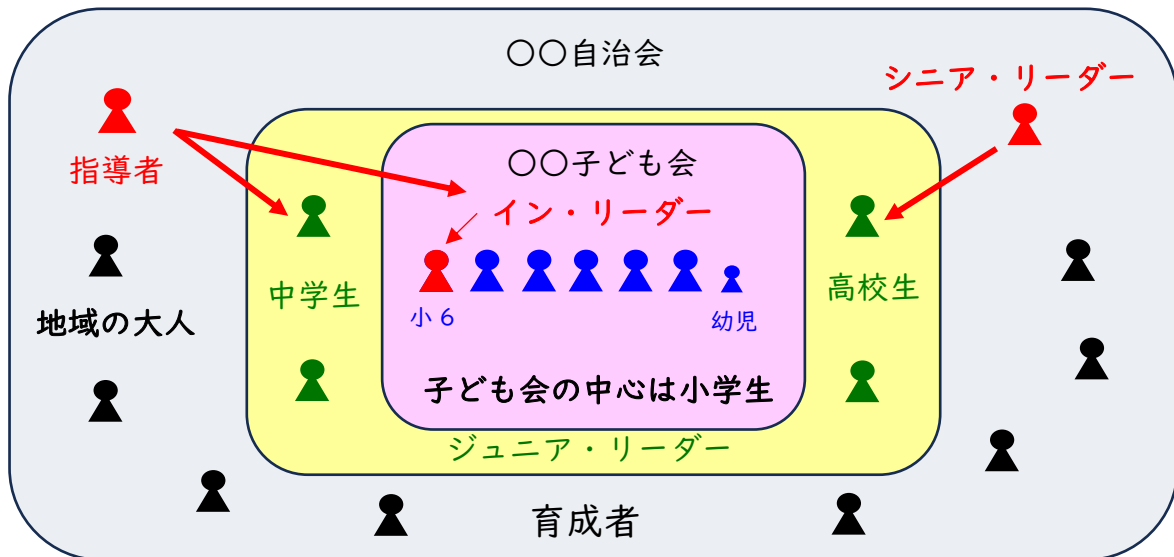
- | | |
|---------------------|------------------|
| ・子どもの自主性・自発性を大事にする。 | ・活動目標を徹底させる。 |
| ・子ども一人ひとりをよく理解する。 | ・楽しい雰囲気づくりに努める。 |
| ・子どもの個性を尊重する。 | ・発達段階に応じた指導をする。 |
| ・温かい人間関係をつくる。 | ・指導・助言のコツを身につける。 |
| ・子どもたちの相互作用を生かす。 | ・反省と評価をしっかり行う。 |

◎指導者の心がまえ

子ども会の指導者は、それぞれの本務（仕事）の余暇を利用してボランティアとして指導している人たちです。したがって、必ずしも専門家ではないのですから無理な要求はできませんが、次のようなことに心がけたいものです。

- | | |
|-------------------------------|-----------------------|
| ・子どもの特性を理解する。 | ・指導者同士及び育成会との連絡を密にする。 |
| ・子どもと一緒に行動する。 | ・研修会に積極的に参加し、自己を高める。 |
| ・計画－準備－実施－反省－記録を大切に
大切にする。 | ・子どもとの約束は絶対に破らない。 |
| ・子ども会の目的、方針を明確にもつ。 | ・子どもの心を傷つけるような言動はしない。 |
| | ・団体運営に必要な知識や技術を身につける。 |

5 ジュニア・リーダーとは？



◎ジュニア・リーダーの役割

ジュニア・リーダーは、子ども会会員の良きお兄さん、お姉さんであり、遊び相手、話し相手です。また、独自の指導的役割とともに、子どもたちの意見を大人の世話人に伝え、世話人の考えを子どもたちに伝える「橋わたし」と、「次のリーダーを育て指導する」という大切な役目を持っています。その主なものは次のとおりです。

- ・仲間づくりの良き理解者として、その推進にあたりとともに、自らの成長を図る。
- ・子ども会活動の具体的、実践的な指導にあたり、会員の積極的参加を推進する。
- ・育成者・指導者の指導のもとに、イン・リーダーの活動を援助する。

◎ジュニア・リーダーとしての条件（心がまえ）

- ・子どもの良き友だちであること。
- ・子どもが好きで、みんなと一緒に行動し、喜び楽しむことのできる人であること。
- ・いつも、子どもたちから学びとる努力をする人であること。
- ・どの子にも公平に接することができること。
- ・ボランティア精神を発揮できる人。



◎ジュニア・リーダー自身を高めるために

ジュニア・リーダーの資質の向上を図り、市子連や単位子ども会活動の充実振興に寄与するとともに、ジュニア・リーダー相互の親睦と連帯意識を高めるために、宮崎市子連では、中高生リーダー養成講座を開催しています。

◎ジュニア・リーダークラブ「おひさま」

中高生リーダー養成講座を受けている中高生が、
宮崎市ジュニア・リーダークラブ「おひさま」を結成して、
自主的に活動しています。



主な活動は、つぎのとおりです。

- ・各地区の子ども会に出向き、レクゲーム等を指導しながら子ども達と一緒に子ども会活動を楽しみます。（出張（出前）子ども会）
- ・定例会（毎月１回）を開き、子ども会のことやレク指導のやり方などを考えます。
- ・市子連の行事（砂の造形コンクール、駅伝大会等）にリーダーとして参加します。
- ・奉仕活動等、地域に役立つことをします。

◎出張（出前）子ども会とは

○子ども会からの要請を受けて、諸行事の企画・運営の補助やレクリエーション等を行います。

○申込みの手順

①電話で申し込みます。（予約状況を確認し、仮予約をとります）

②申込書を１ヶ月前までに提出します。

※詳しい内容や申込書は HP でダウンロード出来ます。

※派遣者を決める期間が必要ですので、直前での予約・申込みはできません。

※目安として、参加児童数 20 名に対してジュニア 1 名です。

※時期によっては、派遣できるジュニアが誰もいない場合があります。

③行事内容についてジュニア・リーダーと打ち合わせます。

④準備物を整えて当日の出張となります。

○経費は、一回につき 2,000 円（人数、交通機関に関係なく）。

ただし、昼にかかる場合は食事を支給してください。

○担当ジュニア・リーダーの交通手段がない場合は、送迎をしてください。

（夜間の活動に出張する場合は、送迎を原則とします。）

○万一事故発生の場合は、全子連安全会加入者のみ市子連で責任を負います。

（ジュニア・リーダーは、全員加入しています）

加入していない人が参加する場合は、「一日保険に加入」してください。

○行事終了後、１週間以内に行事の報告書を市子連に提出してください。

**育てよう！ジュニア・リーダーを
認めよう！ジュニア・リーダーを**



6 子ども会活動の安全教育

安全教育という場合、二つのことが考えられます。一つは「危険から逃れることによって、安全を確保する」という考え方～消極的安全～です。もう一つは「危険にも果敢に挑戦し、それを克服して安全を確保する」という考え方～積極的安全～です。

子ども会における安全教育とは、子どもたちの心身の発達や心理状況を考慮して種々の活動に参加させ、そこにおけるいろいろな障害を適切にとらえ、それに挑戦して、そこに潜在する危険を予測して安全に対処できる能力を養うことです。

1. 経験と冒険で安全訓練を！

子ども会にとっての冒険とは、すぐに目的が達成できるようなものではありませんが、初めから成功のおぼつかないものへ挑戦することは無謀といえます。

子どもにとっては冒険であっても、指導者の目からみれば、成功率が100%に近いものであることが大切です。

2. 事故の原因

- ①環境にひそむ潜在危険
- ②環境にそぐわない服装
- ③心のたかぶりや気のゆるみ
- ④不真面目な態度や軽率な行動



以上四つの内の一つでも事故が発生する可能性があり、二つ以上の原因が競合すると、さらに事故の可能性が増します。指導者・育成者の皆様は注意をお願いします。

◎危険予知トレーニング（KYT）

＜安全は危険の発見から＞

KYTとは、キケンのK、ヨチのY、トレーニングのTをとって「危険予知訓練」の略称です。事故防止の第一歩は「危険」を予知することです。特に潜在的な危険を発見し、あらかじめ対策を立てておくことが、危険を「回避」し、安全確保につながる道でしょう。

しかし、子どもは大人と異なり、経験や知識が不足しているので、大人の想像外の行動をとることがしばしばあります。

特に今の子どもは、昔にくらべ

- ①生活経験や自主的集団活動の不足
- ②生活習慣・生活技術の低下
- ③子どもの集団遊びの減少

などにより、安全能力つまり“危険回避”の能力の点で問題があるように見受けられます。

◎子ども会活動前に 5 分間 K Y T をしましょう

子ども会行事に集まる子ども達は、活動を楽しみにしており早く始まらないかと「ソワソワ」しています。子ども達に今から何をするのかを十分に説明し、何をしてはいけないのか、何が危険なのかを意識させることが重要です。

- ①活動の直前に短時間で行う。(5分間でなくてもOK)
- ②直前に実施することで、参加者全員で問題点を共有し、これから行う活動に対して危機管理の意識を持たせる。
- ③参加型プログラムであり、指導者とのやり取りが重要です。みんなで危険を発見し、対策を考え合い、確認したことを子どもたちに守らせましょう。

◎5分間 K Y T の実践例①

- ① 研修会場を見渡してみましょう！
- ② 危険な箇所は見つかりましたか？
- ③ 子どもにどこが危ないかを発表させましょう。
- ④ 子どもが発見した危険箇所について、何処が、どうしたら危ないか、低学年の子どもに分かりやすく具体的に説明を加えてあげましょう。
- ⑤ 毎回の活動で続けることが重要です。
- ⑥ 子ども達が自分で気づけるようになることがとても大切です。



◎5分間 K Y T の実践例②

次のページに「子ども会 K Y T」のイラストシーンを例示してありますので、これを利用して K Y T を進めてみましょう。

(色々な場面を想定したイラスト集が市子連事務局にあります (貸出し可))

★ K Y T は 4 ステップで

- 第 1 ステップ どんな危険がかくれているか (危険の発見)
- 第 2 ステップ これが危険のポイントだ (特に重要なものは)
- 第 3 ステップ 私ならこうする (具体的な対策を立てる)
- 第 4 ステップ 私たちはこうする (実行する行動目標を決める)



◎KYT 指導者講習

指導者・育成者が子ども会活動の中で安全教育を実践できるように KYT 指導者講習を行っています。指導者、育成者、イン・リーダー等を対象にみんなで安全教育を学んでみませんか。各地区子ども会への出張講習もできます。詳しくは、市子連事務局にお問い合わせください。

★ どこに危険がかくれているか、考えてみよう？



※ 子ども会の集会が始まるのを待っています



※ みんなで野外炊飯をしています



※ 横町でサッカーあそびをしています



※ これから工作を始めます
リーダーが刃物の説明をしています



※ せまい部屋で集会の始まりを待っています



※ おモチつき大会が始まります

7 子ども会安全共済会

子ども会安全共済会は、子ども会会員、育成会会員、指導者が相互扶助の精神に基づいて、活動中(通常経路の往復中を含む)の万一の事故に対して見舞金を支給するとともに、安全思想の普及、安全教育の推進に努め、子ども会活動の発展を図ることを目的としています。

★令和 6 年からネット加入が導入されます。(手書きでの申請も受け付け可)

・令和 7 年からは、原則すべてネット加入に移行します。

★加入できる人

市子連に加入している単位子ども会の小学生、中学生、高校生及び指導者、育成会員、乳・幼児(0歳から加入可、年齢制限なし)

但し、就学前3年(年少)以下の幼児が行事に参加する場合には、安全共済会に加入している保護者が同伴しなければなりません。

★会費(年額)

子ども(18歳未満)、育成者、指導者 一人 250円

※市子連会費が、別途180円必要です(但し、子ども会員のみのみ)

★共済金の給付(共済期間:4月1日0時~翌年3月31日24時まで)

共 済 金

- ・健康保険等を適用した医療費総額の30%
- ・下限制限:1,000円以下の場合は支給しない。
- ・上限制限:500,000円を限度として支給する。
- ・タクシー代、診断書代は支払対象外となります。

日数期限

- ・被害を受けた日から180日を限度

死亡共済金 6,000,000円

提出書類

- ・共済金請求書
- ・事故第一報報告書
- ・領収書(コピー可)
- ・個人情報取扱いについての同意書



★共済金給付の申請

- ・子ども会活動中の事故で、年間行事計画が届けてあること。
- ・ケガ等が治ったら、すみやかに提出すること。

★事故があったら

- ・直ちに電話又はメールで市子連事務局へ下記事項をご連絡ください。
①所属子ども会名②住所③氏名④育成会長名⑤事故発生状況(簡単に)
- ・後日、必要な提出書類(共済金請求書等)等をお渡しします。

★子ども会賠償責任保険

対人事故てん補額	1名	1億円（限度額）
	1事故	5億円（限度額）
対物事故てん補額	1事故	200万円（限度額）

◎事故当時及び修復時の写真を忘れずに撮っておくこと。



1. 全国子ども会安全共済会に加入した者は、自動的に子ども会賠償責任保険の適用を受けます。
2. 被保険者（保険金受取人）は、子ども会行事の主催者です。
※「主催者」とは、主催団体の役員及び行事計画書に記載した指導者をいいます。
※育成者とは、「子どもの親は全て育成者」との基本理念から子ども会会員の親は全て育成者です。
3. 保険金の適用・・・子ども会活動中に、主催者の過失によって事故が発生し、主催者が法律上の賠償責任を負担する場合に適用されます。
4. 対象範囲
・年間行事計画で届けてあること。（往復途中は対象とならない。）
・子ども会会員と指導者・育成会員（役員）等が安全共済会に加入していること。
※詳しくは、「子ども会に入ろう！」のリーフレットを読んでください。
※万一、事故が発生したら、直ちに市子連事務局まで電話連絡して下さい。

★安全共済会の補償内容の変更について（令和5年度より）

- ①交通事故によるケガも医療共済金の支払い対象になりました。
但し、健康保険を適用して治療した場合に限ります。
- ②支払対象の成長痛が増えました。
支払対象：テニス肘、シーバー病
支払対象外：オスグッド病、野球肘、疲労骨折
- ③インフルエンザ、新型コロナ感染症は、子ども会活動中に感染したことを特定することが困難なため、支払対象から外れました。
但し、子ども会活動中に感染した食中毒は支払対象です。

7 宮崎市子連の主な活動紹介

分 類	活 動	時 期	備 考
行 事	砂の造形コンクール	6月上旬	
	ブロック別スポーツ競技大会	6月～8月	
	子ども会スポーツフェスタ	2月上旬	
リーダー養成	中高生ジュニア・リーダー養成講座	6月～3月	中高生対象
	遊創塾（イン・リーダー研修会）	9月～3月	5・6年生 対象
育成者研修	育成者研修会	7月～8月	
	K Y T指導者講習会	通 年	
子ども会 活動支援	子ども会活動活性化事業	7月～2月	
安全共済会	全子連安全共済会の加入手続き 共済金の支給など	通 年	

◎砂の造形コンクール（令和6年度：第63回）

■趣 旨 子ども会の会員が一堂につどい、自然に親しみながら創作活動を行うことで子どもたちに協調性や創造性を身につけさせるとともに、子ども会活動の一層の活性化を図る。1チーム子ども8名～若干名の編成で、2.5m×5mに区切られた砂地に思い思いの作品を作る。

■開催時期 6月上旬（募集期間3月～5月上旬）

■会 場 サンビーチツ葉（南側ビーチ）



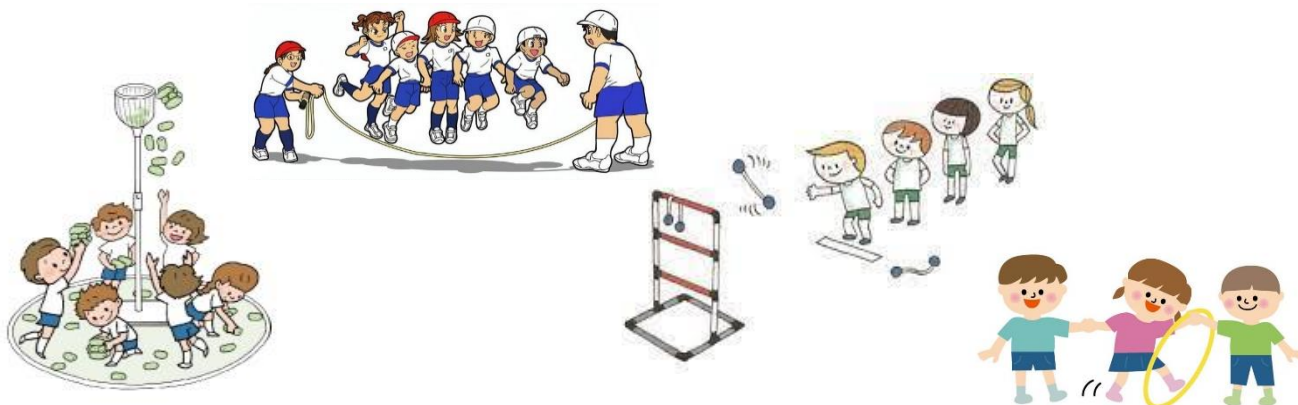
◎ブロック別スポーツ競技大会

- 趣 旨 地域に根ざした子ども会が、日頃からの活動の成果を出し合う場としてブロック別スポーツ競技大会を開催し、子ども同士の親睦と交流を深め豊かな心とたくましい体を持った子どもの育成を図る。
- 開催時期 例年7月～翌年3月頃（各ブロックで実施）
- 種 目 ミニバレー、ドッジボール、ソフトボール、アジャタ、水風戦など



◎子ども会スポーツフェスタ（駅伝大会に代わる新規事業）

- 趣 旨 スポーツを通じて子ども同士の親睦と交流を深めるとともに体力の向上を図る。
- 開催時期 2月上旬（募集期間11月～12月）
- 会 場 青島青少年自然の家（未定）
- 競技種目 アジャタ・長縄跳び・ラダーゲッター・フラフープくぐり



◎中高生リーダー養成講座

■趣 旨 子ども会のジュニア・リーダーとして必要な理論・方法・実技を習得してもらうとともに、子ども会会員に適切な指導・助言ができ、誰からも信頼されるリーダーを養成する。

■実施時期 6月～翌年3月（年11回）

■募集時期 4月～5月（随時受付中：途中参加OK）



◎遊創塾

■趣 旨 子ども会活動において、中心的役割を果たすイン・リーダー（5・6年生）の育成を図る。集団ゲームのやり方や宿泊研修等イン・リーダーとして必要な事柄の研修を行う。

■実施時期 9月～翌年3月（年8回）

■対象者 小学5・6年生（募集期間7月～8月）



◎親子イン・リーダー研修会（遊創塾生・中高生リーダー養成講座生も参加）

- 趣 旨 次年度、子ども会のイン・リーダーになる予定の5年生と育成会の役員等を対象に子ども会活動を行う上でのプログラムの立て方やプログラムの進め方、レクゲームやK Y T（危険予知トレーニング）の仕方等を学んでもらう。
- 開催時期 2月の土曜日（午前9時半～午後3時）
- 対 象 者 小学5年生と育成者
- 募集期間 12月～1月



◎宿泊イン・リーダー研修会（遊創塾生・中高生リーダー養成講座生も参加）

- 趣 旨 子ども会活動で主要な役割を果たす子ども会イン・リーダーの指導力の養成並びに子ども会ジュニア・リーダーの資質の向上を図ることにより、子ども会活動の充実・発展に資する。
- 開催時期 3月（1泊2日の研修）
- 対 象 者 小学5年生
- 募集期間 12月～2月



◎子ども会活動活性化補助事業

- 趣 旨 家庭教育や地域教育の重要性が指摘されている現在において、地域での子どもの生活支援のあり方は重要な課題となっている。このような状況を踏まえ、地域に根ざした子ども会活動の活性化を図るため、子ども会活動の基盤づくりになるような事業を実施する子ども会を支援する。
- 主 催 宮崎市教育委員会・宮崎市子ども会育成連絡協議会
- 補助金額 1 団体につき 3 万円～5 万円
(会員数に応じて補助金額を決定)
- 募集期間 4 月～5 月 (交付式は 7 月)
- 報 告 書 2 月末迄に提出



◎育成者研修会

- 趣 旨 子ども会の目的や組織、活動のあり方を理解するとともに、子どもの興味と関心を引き出すには、どうしたらよいかを育成者・指導者が学ぶことにより育成活動を活発にしようとするものである。
- 主 催 宮崎市教育委員会・宮崎市子ども会育成連絡協議会
- 開催時期 7 月～8 月
- 会 場 宮崎市民文化ホール (オンラインによる研修動画の視聴あり)

◎K Y T (危険予知トレーニング) 指導者講習会

- 趣 旨 子ども会活動においては、事故を未然に防ぐなど、安全確保が大切である。そのために子ども会活動の安全教育及び対策として、「子ども会 K Y T」を学び子どもと育成者が、より一層安全で楽しい子ども会活動が出来るようにする。
- 主 催 宮崎市子ども会育成連絡協議会
- 開催期間 6 月～翌年 2 月 (随時受付中)
- 会 場 申し込み団体が準備する (定員目安は 20 名前後)
- 対 象 者 子ども会関係者 (児童の同伴も可能)
- 助 成 金 10,000 円 (実施団体に対して支給)
- 講 師 宮崎市子ども会 K Y T 中級指導者 (講師料は無料)

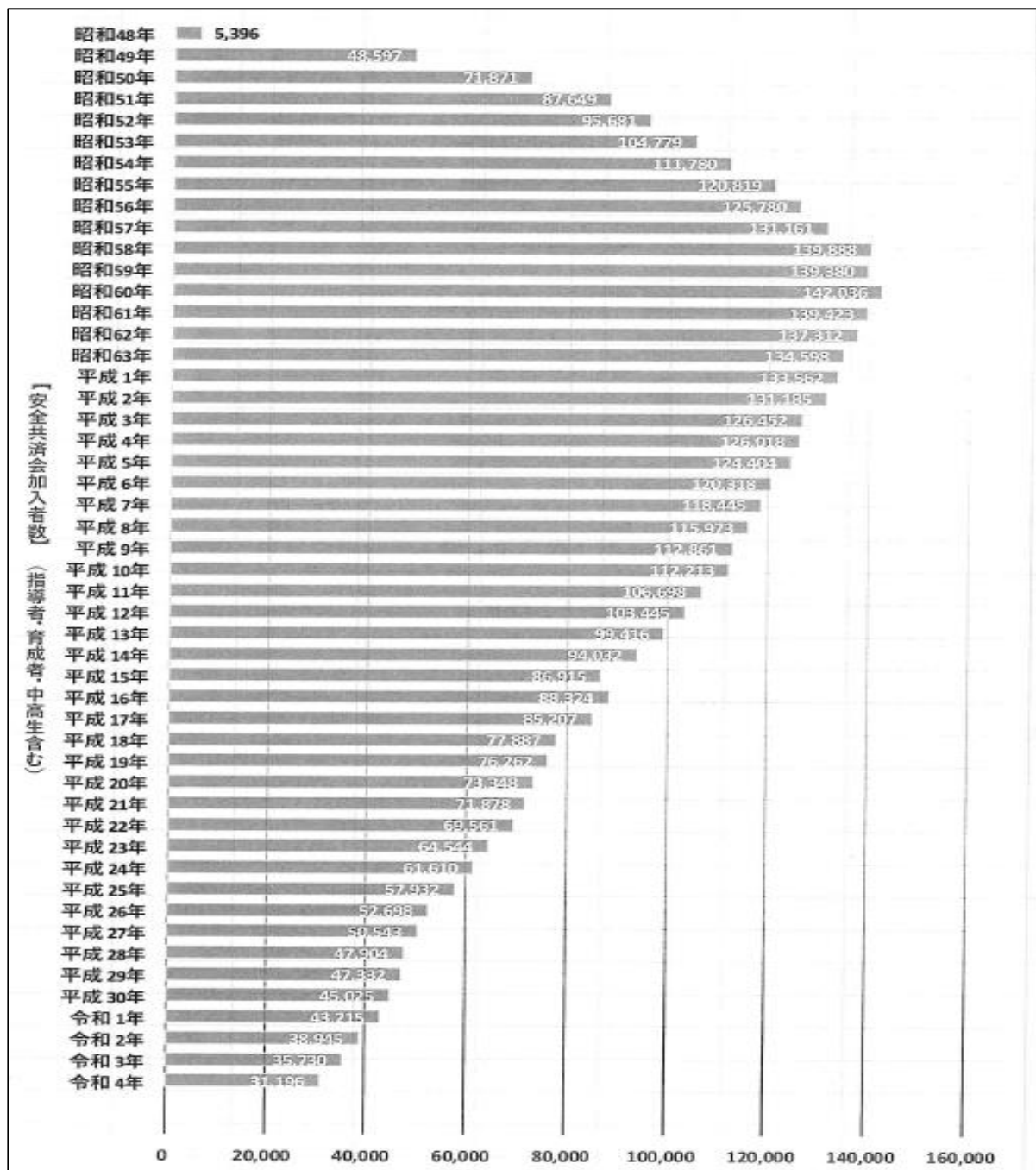
8 宮崎市子ども会育成連絡協議会について

宮崎市子連は、子どもの健やかな成長を願い、多くの体験活動の場を提供することを目的に単位子ども会や校区子連協で活動されている育成者・指導者の集まりとして、昭和36年9月に結成された団体です。

令和5年度の会員は、単位子ども会数261団体、子ども会会員数10,100人を数え、子ども会活動に参加しています。(令和5年6月現在)

昭和60年頃をピークとして、児童・生徒の人口減少(少子化による自然減)がみられるほか、ここ数年では、市子連を脱会する校区や子ども会を解散する地域も見受けられます。

子ども会を盛り上げていくためには、子ども会活動の役割や必要性を育成者に理解してもらうことが重要であり、子ども会のあり方を育成者みんなで考えていくことが大切です。



全子連「安全共済会加入者数」の推移

◎宮崎市子連の活動方針及び事業計画（令和6年度）

Ⅰ 基本方針

近年の新型コロナウイルス感染症の流行により、新しい生活スタイルに変わりゆくなかで、子どもの遊びにも大きな変化がみられる。このような世相や社会の動き、地域や家庭の環境の変化を反映して、子どもの心の成長の糧となる生活体験や社会体験、自然体験などの体験的学習の不足や交友関係の希薄さなど人間形成にかかわる問題が指摘されている。

次世代を担う子どもたちが、「生きる力」を学び、健やかに成長していくためには、こころの「豊かさ」を育てるための豊富な社会体験、自然体験、文化・スポーツ活動など様々な体験や活動の場と機会を与えることが必要である。子ども会活動は、学校・家庭・地域社会をつなぐ重要な役割を果たしており、さらに「地域の子どもは地域で育てる」という観点から、地域の地縁団体等との連携強化に努め、「子どもの手による子ども会」の実現を目指した子ども会活動の充実・発展と、急激に変化する社会をたくましく生きぬく力と、心豊かで思いやりのある子どもの育成に努める。

2 努力目標

●子ども会活動の充実・発展に努める。

- ①異年齢の豊かな仲間集団による自主活動を推進する。
- ②生活体験や社会体験、自然体験などの体験活動の機会を促進する。
- ③イン・リーダー研修会への参加促進を図り、リーダーの養成に取り組む。
- ④中学生や高校生の子ども会活動への参加を促進し、ジュニア・リーダーの増員と活用に努める。
- ⑤事故及び防災・危機管理など、安全教育（KYT）を進める。
- ⑥ボランティア活動への参加促進を図る。
- ⑦市内小学校児童全員の子ども会活動への加入促進に努める。

●子ども会育成会活動の充実・発展に努める。

- ①会員相互の親睦と連携を深め、育成組織の強化と事業の推進に努める。
- ②指導者の発掘、養成（ジュニア・リーダー等）に努める。
- ③子ども会活動の指導者、場所、経費、用具の確保と整備に努める。
- ④育成会の構成は子ども会会員の保護者だけでなく、趣旨に賛同する地域住民でもって構成する。
- ⑤生活環境の浄化と非行防止に努め、子どもの健全育成に努める。
- ⑥事故防止に努めるとともに、安全共済会への加入を促進する。
- ⑦子ども会・育成会相互や上部組織との連携を密にし、情報の収集に努める。
- ⑧地域の地縁団体、少年団体等との連携強化を図る。

令和 6 年度 事業計画

月	日	市子連事業	月	日	県子連事業
4	13	会計監査	4	24	第1回市町村子連 事務担当者会議Web
	24	活性化補助事業〈申請説明会〉			
	25	活性化補助事業受付開始			
	25	安全共済会受付開始			
5	9	総会	5	19	J L 養成推進会議 (全市町村)
	9	第1回理事会			
	31	安全共済会受付終了			
	31	活性化補助事業受付終了			
6	8	中高生リーダー養成講座〈開講式〉	6	15	令和6年度県子連総会
	9	第62回宮崎市子ども会砂の造形コンクール			
	11	活性化補助事業〈審査会〉			
		育成者ブロック別研修会			
7	4	活性化補助事業〈補助金交付式〉	7	27~28	第44回宮崎県子ども会 ジュニア・リーダー研修 大会（1泊2日）
	7	中高生リーダー養成講座			
	27	中高生リーダー養成講座(県大会参加)			
	28				
8		ブロック別スポーツ競技大会	8	10~12	第49回九州地区 ジュニア・リーダー 研修大会（宮崎大会）
				18	KYT初級指導者認定講習会
9	7	遊創塾(5・6年生) 開塾式	9		
	7	中高生リーダー養成講座			
10	12	中高生リーダー養成講座(キャンプ)	10	19~20	KYT中級指導者認定講習会
	13				
	14				
	19	遊創塾(5・6年生)			
11	10	遊創塾(5・6年生)	11	10	県子連育成大会（都城）
	10	中高生リーダー養成講座		16	九子連育成大会（沖縄）
	23	遊び三昧(養成講座/遊創塾)		18	
12	7	遊創塾(5・6年生)	12		
	7	中高生リーダー養成講座			
	21	クリスマス会（JLおひさま主催）			
1	11	遊創塾(5・6年生)	1		
	11	中高生リーダー養成講座			
2	2	第1回子ども会スポーツフェスタ	2	2	第2回市町村子連 事務担当者会
	15	親子イン・リーダー研修会（養成講座/遊創塾）			
3	8	イン・リーダー研修会(青島青少年自然の家)	3		
	9	〔一般5年生・遊創塾生・養成講座生〕			
		第2回理事会			

子ども会育成会の組織図

